

「キャリアプランニング能力」を育むキャリア教育の展開

― 体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れて ―

東広島市立御園宇小学校 大山 紀子

研究の要約

本研究は、「キャリアプランニング能力」を育むキャリア教育の展開について、体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れて考察したものである。断片的な活動を有機的に結び付けることを可能にする文脈学習の視点を取り入れ、体験活動と事前・事後学習に学びの意味や価値を実感させる連続性のある学習を行った。具体的には、児童に学習履歴の振り返りをさせながら、自己評価を行うことのできるつながりシートにより、自己の変容を意識化させる取組を行った。併せて、キャリア発達を促すためのキャリア・カウンセリングを意図的・計画的に行った。その結果、学ぶことや働くことの意義を理解したり、主体的な行動や改善をしたりする力を身に付けることができ、「キャリアプランニング能力」を育むことに有効であることが分かった。

キーワード：キャリアプランニング能力 文脈学習 キャリア・カウンセリング

I 主題設定の理由

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターは、「キャリア教育・進路指導に関する総合的な実態調査第二次報告書」（平成25年、以下「第二次報告書」とする。）で、学ぶことの意義についてふだんの生活の中でいつもそのことを意識している児童は少ないと述べている。また、小学校におけるキャリア・カウンセリングの実施率は低く、一人一人の小学校教員がキャリア発達を促す個別支援としてキャリア・カウンセリングを正しく捉え、その実践に対する前向きな姿勢をもつことが不可欠であると述べている。文部科学省「小学校キャリア教育の手引き」（平成23年、以下「手引き」とする。）のキャリア教育アンケートを所属校の第5学年を対象に行った結果、「キャリアプランニング能力」に課題が見られた。所属校ではこれまで、地域や異校種、専門家等との連携を柱としたキャリア教育の体験活動を積み重ねてきた。表1は、所属校の体験活動をまとめたものである。

しかしながら、それらの活動が断片的で、過去・現在・将来を見通したつながりのある学習となっていないことが多く、体験活動を生かしきれていない現状がある。このような理由から、児童は学ぶことや働くことの意義を理解したり主体的な行動やその行動改善をしたりすることに至っていないのではないかと推測される。

本研究では、これまでの断片的な活動を有機的に結び付けることを可能にする文脈学習(contextual learning)の視点を取り入れる。具体的には第5学年の体験活動と事前・事後学習に、学びの意味や価値を実感させる連続性のある学習を行う。その際、一人一人のキャリア発達を促すためのキャリア・カウンセリングを意図的・計画的に行う。このことにより児童は、学ぶことや働くことの意義を理解したり、主体的な行動や改善をしたりすることができるようになり、「キャリアプランニング能力」を育むことができ、一人一人のキャリア形成過程でその能力を生かすことができると考え、本主題を設定した。

II 研究の基本的な考え方

1 所属校における育成したい能力や態度

中央教育審議会答申（平成23年）において示された、キャリア教育で育成すべき力である「基礎的・汎用的能力」について、所属校の児童実態を把握するた

表1 所属校の連携を柱とした体験活動

学年	主な連携	具体的な活動
1	地域との交流活動	幼保小連携
2		みそのうトライアングル学校探検
3		小中連携
4		松賀中学校との花の苗植え
5		小高連携
6		西条農業高等学校との交流
	専門家との連携	プロに学ぶ（シェフ・伝統工芸士等）
	幼保小連携	みそのうトライアングル学校ごっこ
	専門家との連携	創作表現「響」（和太鼓・詩吟等）

め、第5学年児童25人にアンケートを実施した。アンケート項目は、「手引き」の「キャリア教育アンケートの一例」を使用し、①から⑫の質問項目に4段階評定尺度法で行った。アンケートの項目と「基礎的・汎用的能力」の対応については、表2に示す。

表2 キャリア教育アンケートの項目と能力

項目番号	各能力における要素	基礎的・汎用的能力
①	他者の個性を理解する力	人間関係形成・社会形成能力
②	他者に働きかける力、コミュニケーションスキル	
③	チームワーク・リーダーシップ	
④	自己の役割の理解	自己理解・自己管理能力
⑤	忍耐力・ストレスマネジメント	
⑥	前向きに考える力・主体的行動	
⑦	情報の理解・選択・処理等	課題対応能力
⑧	本質の理解・原因の追求・課題発見	
⑨	計画立案・実行力・評価・改善	
⑩	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解・多様性の理解	キャリアプランニング能力
⑪	将来設計・選択	
⑫	行動・改善	

図1は、所属校の第5学年による事前アンケートの結果である。分析の結果、「いつもしている」と回答した割合の平均値が最も低い能力は、「キャリアプランニング能力」で、27%であった。その能力の中で最も低い値の項目は、⑫「行動・改善」に係る要素で12%であり、次に低い項目は、⑩「学ぶこと・働くことの意義や役割の理解」に係る要素で、24%であった。この項目は「第二次報告書」においても、今後のキャリア教育の更なる推進・充実のために特に重要な側面として注目されている。この結果から、所属校において育成したい能力や態度は、学ぶことや働くことの意義を理解したり、主体的な行動や改善をしたりする力とし、「キャリアプランニング能力」を育むこととする。

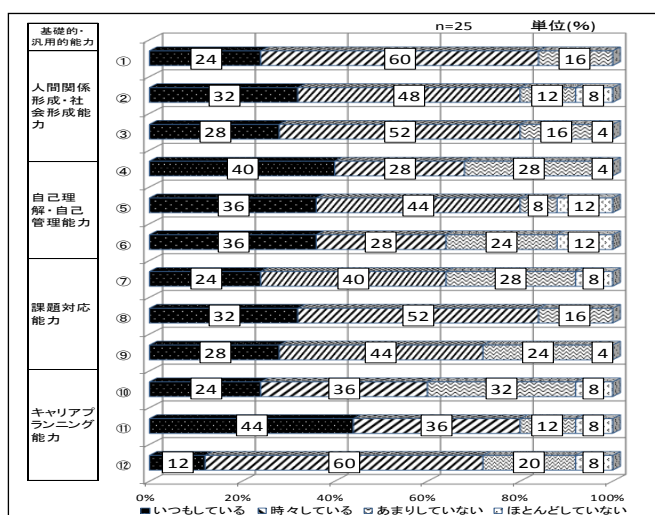


図1 所属校第5学年児童の事前アンケートの結果

2 体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れることについて

(1) 体験活動と事前・事後学習について

国立教育政策研究所生徒指導研究センターキャリア教育体験活動事例集「家庭や地域との連携・協力」(平成20年)では、現在、各学校では児童生徒の発達段階、地域性、各学校の実態等に応じて、それぞれの創意工夫により特色ある体験活動が実践され、大きな成果を上げている一方で、体験活動の実践が体験のみに終わってしまい、本来の教育的機能が十分に発揮できていないという指摘もある。そこで、キャリア教育にかかわる体験活動が教育的機能を十分に果たすための活動実施のポイントとして、事前指導の充実、事後指導の充実を挙げ、その重要性について述べている。

(2) 文脈学習について

ア 文脈学習とは

文脈学習とは、学習の意味探求を重視したデイル・パネルが提唱した理論であり、断片的な活動を有機的に結び付けるために、各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動などにおいて、意図的なつながりをもたせる学習である。

文部科学省国立教育政策研究所生徒指導研究センター「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」(平成23年、以下「調査研究報告書」とする。)では「従来の進路指導を中心とする学校教育の取組においては、目標に向けて発達課題の達成を支援する系統的な指導・援助といった意識や視点が希薄であった。そのため取組が全体として脈絡や関連性に乏しく、児童生徒の内面の変容や能力の向上に十分結びついていない傾向があった。こうした課題を解決するためにはこれまでの『点』の活動を『面』へ展開する文脈学習が求められる。」¹⁾と述べている。

イ 文脈学習の視点とは

表3は、パネルが構成した文脈学習の七つの原理をまとめたものである。この原理を参考として、「調査研究報告書」では、文脈学習における四つの視点を提示している。そして、日常の教育活動においては、文脈学習の視点を持つことが必要であり、今、学んでいることが社会でどのような意義をもつのか、どのように活用できるのかについてこの視点を取り入れて指導することにより、「学ぶこと」「生きること」「働くこと」の意義を理解することができると述べている。本研究では、「キャリアプランニング能力」の要素である「学ぶこと」「働くこと」の意義の理解について焦点化して取り組む。表4は文

脈学習の四つの視点を表にまとめたものである。

なお、四つの視点の順序性については触れられていない。

表3 文脈学習の七つの原理⁽¹⁾

原 理	原 理 の 内 容
目 的	教師は、学習単元の目的を生徒が理解することを援助する。
積み重ね	新しい知識と、学習単元は慎重に明確に、新しい学習が既存の経験の上に構築されるように、生徒の既存の知識や過去の学習と結び付けなければならない。
応 用	新しい知識は明確に、その実用的な現実社会の応用、生徒の将来の役割等と関連付けられる。
問題解決	生徒は、問題解決するために新しい知識とスキルを使うことで能動的学習者になるよう促される。
チームワーク	生徒は、問題を解決するために、一緒に作業することでチームワークや協同を学習する。
発 見	生徒は、与えられた解答を得るというよりも、新しい知識の発見に向けて導かれる。
関連付け	教師は、生徒が「文脈と内容」「知識と応用」「教科と教科」の関連を見いだせるよう援助する。

表4 文脈学習の視点⁽²⁾

視 点 [七つの原理]	内 容
視 点(a) [目 的]	学習目的とのつながり 「何を」学ぶだけではなく、「なぜ」学ぶべきかを伝える。
視 点(c) [問題解決]	日常生活とのつながり 学習を現実社会での具体的な場面と関連づける。児童生徒が日常的な問題を解決するために知識や能力を使用できる経験機会をつくる。
視 点(b) [積み重ね] [関連付け]	過去の学習や教科間のつながり 新しい学びが既存の学習経験の上に構築されるよう、児童生徒の既存の知識や過去の学習と結びつける。学習間のつながりをつくる。
視 点(d) [応 用]	将来の役割とのつながり 児童生徒の将来の役割(働くこと、市民、家族の成員、生涯学習者など)につなぐ。

(3) 体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れるとは

第5学年の総合的な学習の時間における「学校ごっこをしよう」という体験活動とその事前・事後学習に、文脈学習の視点を取り入れる。また、一人一人のキャリア発達を促すための意図的・計画的なキャリア・カウンセリングを併せて行う。この一連の流れは、これまでの学習や体験の積み重ねを土台として常に立ち返りながら「キャリアプランニング能力」の育成に向かう。図2は、その構想図である。

事前学習では、特別活動1の授業において、文脈学習の視点(a)「学習目的とのつながり」を取り入れる。「学校ごっこを成功させよう」という学習の目的を明確にもたせた上で、その目標を達成するために、自分の日常生活を振り返らせ、自己の目標を決定し、行動改善に向けて実践させていく。

次に、道徳の時間の授業において、文脈学習の視点(c)「日常生活とのつながり」を取り入れる。働くことの意義を理解し、今後の生活の中で自分が人のためになる仕事をやってみようとする態度を育てる。

これらの事前学習を踏まえて、総合的な学習の時間において、視点(b)「過去の学習や教科間のつながり」を取り入れる。年長児との交流活動を通して相手意識・目的意識を明確にもたせ、これまでの知識や既習の学習事項を生かしながらグループで工夫し、協同して活動を進めさせる。

事後学習としては、特別活動2の授業において、文脈学習の視点(d)「将来の役割とのつながり」を取り入れる。体験活動についての振り返りをさせた上で、1年後の「なりたい自分」について具体的なイメージをもたせ、今後の第5学年の生活をどう過ごしていくかを改めて考えさせたり、最高学年となる自覚を高めさせたりする。このように、体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れ、意図的・計画的なキャリア・カウンセリングを行うことは、学ぶことや働くことの意義を理解したり、主体的な行動や改善をしたりする力を身に付けることに効果があり、「キャリアプランニング能力」を育むことに有効であると考ええる。

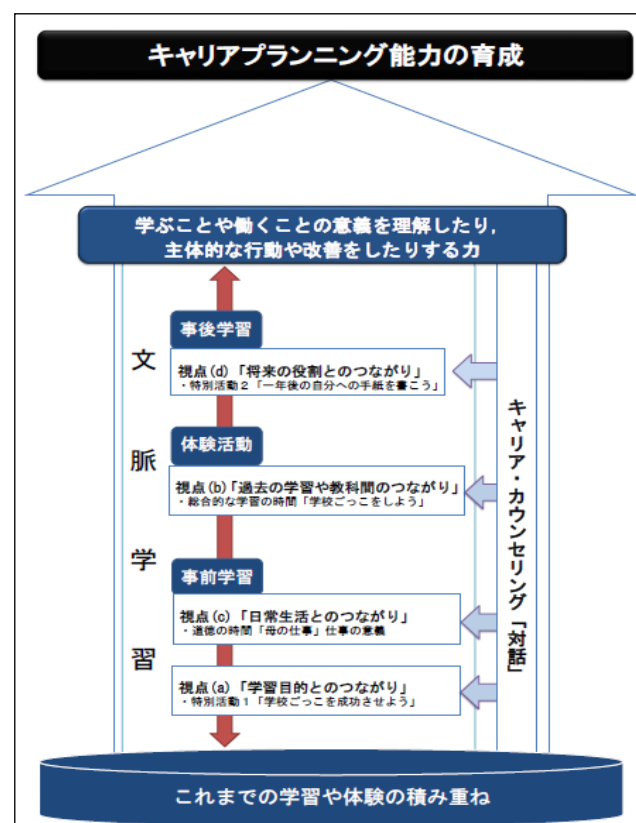


図2 体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れた構想図

(4) 小学校におけるキャリア・カウンセリング ア 小学校におけるキャリア・カウンセリングとは

「第二次報告書」によると、小学校におけるキャリア・カウンセリングの実施率は4.7%であり、他校種と比較して極端に低いことが明らかになった。よって、「一人一人の小学校教員が、キャリア発達を促す個別支援としてキャリア・カウンセリングを正しく捉え、その実践に対する前向きな姿勢をもつことが不可欠であることを示す。」²⁾としている。

また、キャリア・カウンセリングの内容は、小学校段階では自分を理解すること、自分の得意を見つけること、よさについて理解すること、自分に自信をもつこと等であり、今まで小学校段階で行われてきた教育活動の中での体験活動や相談活動における個別支援をキャリア・カウンセリングと結び付け、位置付けていくことの必要性を述べている。

「手引き」によると、小学校でのキャリア・カウンセリングは、「対話」つまり、教師と児童生徒との直接の言語的なコミュニケーションを手段とすることが特徴であると示している。

以上のことから、小学校におけるキャリア・カウンセリングとは、自分を理解する等の四つの内容を重視し、対話を大切にしている個別支援である。これらを意図的・計画的に行うことは、一人一人のキャリア発達を促し、学ぶことや働くことの意義を理解したり、主体的な行動や改善をしたりする力を身に付けることに効果があると考えられる。

イ キャリア・カウンセリングを進めるために

会沢信彦(2014)は、学校で生かせるカウンセリングの代表はアドラー心理学であり、その支援や介入の指針として最も重視するのが勇気づけであると述べている。表5は、会沢が述べている勇気づけの具体例をまとめたものである。本研究では、この勇気づけの具体例を個別支援において、意図的・計画的に援用していく。

表5 勇気づけの具体例⁽³⁾

項 目	具 体 例
①過程を重視する	「努力しているね。よくがんばったんだね。」
②加点主義	「あなたのこの部分はとてもいいと思うよ。」
③貢献に注目する	「手伝ってくれて助かった。うれしかったよ。」
④失敗を受け入れる	「残念だったね。今後どうしたらいいかな？」
⑤相手に判断を委ねる	「自分が決めた方法でやってみよう。」
⑥肯定的に表現する	失敗には注目せずに「○○をしてくれたんだね。とてもうれしかったよ。」
⑦聴き上手	「そうか、そうだったんだ。」
⑧人格を重視する	「あなたのした事は、よくないことだがあなたのすべてが悪いのではない。」

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れ、併せてキャリア・カウンセリングを行うことにより、学ぶことや働くことの意義を理解したり、主体的な行動や改善をしたりする力を付けることができ、「キャリアプランニング能力」を育むことができるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表6に示す。

表6 検証の視点と方法

検証の視点	方法
体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れ、併せてキャリア・カウンセリングを行うことにより、学ぶことや働くことの意義を理解したり、主体的な行動や改善をしたりする力を付けることができたか。	自己評価カード つながりシート 振り返りカード
「キャリアプランニング能力」は育まれたか。	キャリア教育アンケート(事前・事後)

3 キャリア教育アンケート・自己評価カード

「キャリアプランニング能力」が育まれたかについて検証するため、取組の前後に「キャリア教育アンケート」を実施する。アンケートは「手引き」の「キャリア教育アンケートの一例」を基に作成し、4段階評定尺度法と記述により回答させる。また、自己評価カードでは、授業後の感想と文脈学習の視点の意識について4段階評定尺度法で見取る。

4 つながりシート

本研究では、他学年や様々な体験活動にも汎用していくことができるよう、堀哲夫(2013)が開発した一枚ポートフォリオ評価(OPPA)を参考に、つながりシートを作成した。それを、図3に示す。

学習の出発点としては、まず学習前の知識や考えを明確にさせる。次に、文脈学習の視点を取り入れた学習の内容を示す学習履歴を記述していく。最後に、学習の到達点としての学習知識や考えを明確にさせる。学習履歴を振り返り、自己の変容を意識化する自己評価を行うことにより、学習を進めながら学習の意義や目的、他教科等とのつながりを意識することができる。また、「先生へ」の欄には児童の思いを書かせ、その思いに対する教師の返事は、勇気づけの具体例を援用して行い、キャリア・カウンセリングの契機とする。

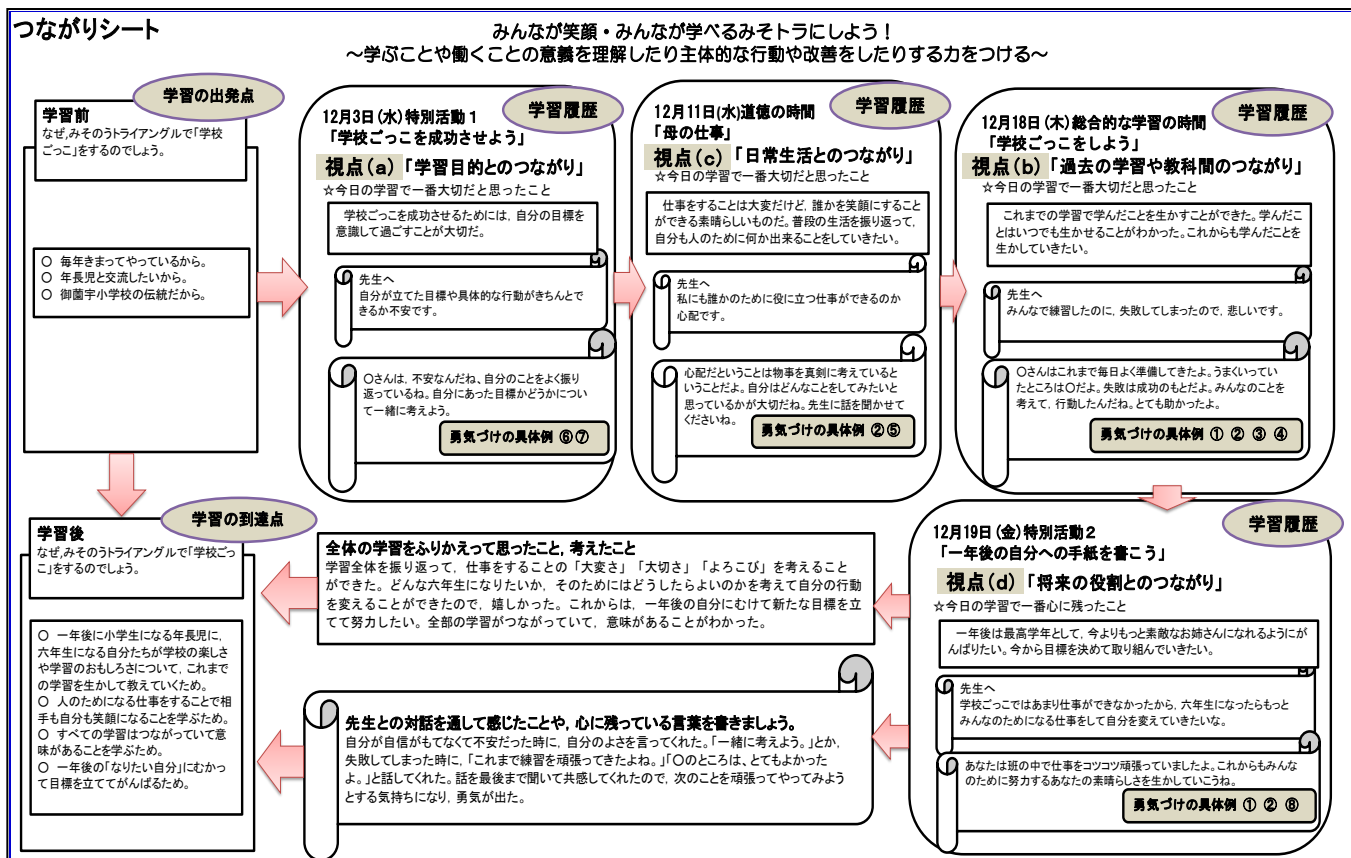


図3 つながりシート ※なお記述内容は一例である。

IV 研究授業について

1 研究授業の内容

- 期 間 平成26年12月3日～平成26年12月19日
- 対 象 所属校第5学年1組(25人)

2 授業の概要

体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れた特別活動、道徳、総合的な学習の時間の授業を行う。また、個別支援としてキャリア・カウンセリングを行う。表7は、授業全体の概要である。

V 研究授業の分析と考察

1 学ぶことや働くことの意義を理解したり、主体的な行動や改善をしたりする力を付けることができたか

(1) 体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れることについて

ア 体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れることができたか

児童には授業前に、文脈学習の視点を取り入れた授業を行うことについて説明し、教室に視点を入れ

た学習内容に係る表を掲示しておき、いつでも確認できるようにした。

自己評価カードにおいて、文脈学習の視点について意識した児童の割合を表したものを次頁図4に示し、具体的な記述内容の一部については、次頁表8に示す。

表7 授業全体の概要

学習の流れ	予定	学習内容	文脈学習の視点	ねらい	キャリア・カウンセリング(表5参照)
事前学習	12/3(水)	特別活動1 学校活動(2)ア 希望や目標をもって生きる態度の育成 「学校ごっこを成功させよう」	視点(a)「学習目的とのつながり」 「学校ごっこ」の目的と、その活動を通して「なりたい自分」の姿について考え、自己の目標を決定させる。	「学校ごっこを成功させよう」というねらいのもと、自己の目標を立てて、活動を成功させようとする意欲を高める。	
事前学習	12/11(木)	道徳の時間 働くことの意義4～(4) 資料「母の仕事」出典 日本文芸出版「生きる力」6	視点(c)「日常生活とのつながり」 これから人のためにやってみたいことや、日常生活の中で役に立ちたいことを考える。	自信と誇りをもって仕事の意義やすばらしさを語る母の姿を通して、働くことの意義を理解し、社会に奉仕することの喜びを知って社会のために役立つことをしようとする態度を育てる。	つながりシートに「先生へ」という欄を設け、教師へ伝えたいことを書く。教師はこれを受けてメッセージを返し、併せて個別支援の契機とする。
体験活動	12/18(木)	総合的な学習の時間 「学校ごっこをしよう」	視点(b)「過去の学習や教科間のつながり」 これまでの学習を生かして、相手の立場に立った話し方(話すスピード、間の取り方、表情等)を工夫する。学習のつながりを意識して活動する。	幼児との交流会に向けて、準備をしたり実施したりする一連の活動を通して、課題を設定する力や解決する力、協同して学ぶ力を育てる。	対話による言語的コミュニケーションとして、勇気づけの具体例を援用する。
事後学習	12/19(金)	特別活動2 学校活動(2)ア 「一年後の自分への手紙を書こう」	視点(d)「将来の役割とのつながり」 「なりたい自分」のイメージを具体的にもち、行動改善について自分なりの考えをもって「一年後の自分」へ手紙を書く。	「一年後の自分」へ手紙を書く事を通して、「なりたい自分」のイメージを具体的にもち、行動改善について考えることができる。	

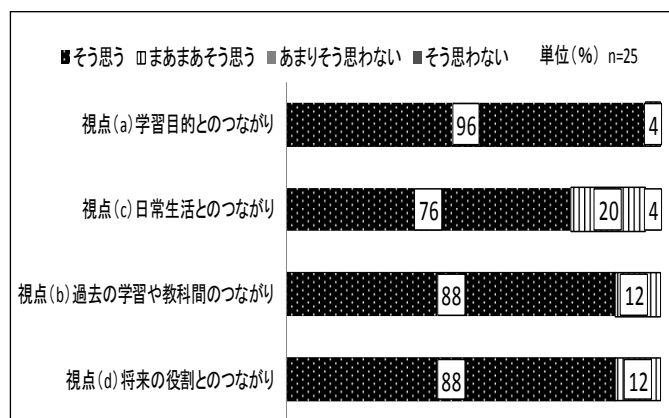


図4 文脈学習の視点を意識した児童の割合

文脈学習の視点を特に意識した授業において、「そう思う」「まあまあそう思う」と肯定的に回答した児童の割合の平均値は99%であり、記述内容においてもそれらの視点を意識して取り組んでいることがうかがえる。

以上のことから、体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れることができたといえる。

表8 視点ごとの児童の記述内容の一部

文脈学習の視点 【学習活動】	具体的な記述
視点(a)「学習目的とのつながり」 【特別活動1】	<ul style="list-style-type: none"> ・みそトラを成功させるために自分の目標を立てることができてよかった。 ・みそトラの成功を考えて、自分の目標を立てることができた。
視点(c)「日常生活とのつながり」 【道徳の時間】	<ul style="list-style-type: none"> ・人が笑顔になるように自分ができていることを普通の生活の中で見つけた。 ・家族が楽になるように、家での手伝いを始めたいと思った。
視点(b)「過去の学習や教科間のつながり」 【総合的な学習の時間】	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習したことを生かして活動することができた。 ・これまでに勉強してきたことはすべて意味があり、つながっていることがわかった。
視点(d)「将来の役割とのつながり」 【特別活動2】	<ul style="list-style-type: none"> ・六年生になったらやってみたい仕事について考えることができた。 ・一年後の自分を考えて目標をもつことができた。

イ 学ぶことや働くことの意義を理解することができたか

「学ぶことや働くことの意義を理解する」ことについて、各学年で育てたい力を表9に示す。この定義は、小学校学習指導要領、文部科学省「キャリア教育のススメ」等を基に、所属校作成のキャリア教育パンフレット「キャリア教育を創る」【各学年で育てたい力】を所属校の児童実態を考慮して加筆修正したものである。

表9 学ぶことや働くことについて各学年で育てたい力

育てたい力	低学年	中学年	高学年
学ぶこと	学ぶことの楽しさを感じる。	学ぶことの大切さを知り、課題を達成しようと最後まで努力する。	学習が、生活や将来の職業と関連していることを理解する。
働くこと	働くことの喜びや、満足感を感じる。	働いている人の工夫や努力を知り、働くことの大切さを知る。	仕事はそれぞれにやりがいがあることを理解し、生活や将来の職業と関連していることがわかる。将来の夢をめざして実現の方法を考え、努力する。

表9の育てたい力を基に、表10の段階ごとの視点でつながりシートの学習の出発点と到達点において「学ぶことや働くことの意義を理解する」ことの記述分析をした結果、表11のような結果となった。

表10 つながりシートの記述を見取る段階ごとの視点

段階	視 点
iii	学ぶこと、働くことの意義についてどちらも記述がある。
ii	学ぶこと、働くことの意義についてどちらかの記述がある。
i	学ぶことや働くことの意義についてどちらも記述していない。

表11 つながりシートの段階ごとの児童の人数

段階	学習の出発点 (人)	学習の到達点 (人)
iii	1	20
ii	11	4
i	13	1

表11に示したように、学習前には段階 i の児童が13人から学習後には1人となり、学習前には段階 iii の児童が1人から学習後には20人となった。段階が i から iii となり、特に変容が見られた児童 a のつながりシートの記述内容の一部を、表12に示す。

表12 児童aのつながりシートの記述内容の一部

段階	具体的な記述【育てたい力】
学習の出発点 (段階 i)	<ul style="list-style-type: none"> ・御菌宇小学校の伝統だから。 ・小さい子供達と交流したいから。
学習の到達点 (段階 iii)	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の学習はいつでも使うことができる。今の学習は将来につながっている。【学ぶこと】 ・今やっていることは、一年後や将来の自分に生かすことができるから。【学ぶこと】 ・みんなが笑顔になることが自分も笑顔になり、働くことにもつながるから。【働くこと】

このことから、体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れることにより、学ぶことや働くことの意義を理解することができたと考えられる。

ウ 主体的な行動や改善をする力を付けることができたか

特別活動1の授業で、学校ごつこの成功に向けた個人の1回目の目標を決定し、5日間実践した後に振り返り、2回目の目標を決定した。その後、視

点(c)を取り入れた道徳の時間の授業や視点(b)を取り入れた体験活動を2回目の実践中に設定し、意図的なつながりをもたせた学習を行った。5日間目標が達成できた児童を段階Aとし、4日間達成できた児童をB、3日間以下の児童をCとして、目標達成段階の人数を示したものが、表13である。

段階	1回目(人)	2回目(人)
A(5日間達成)	15	20
B(4日間達成)	5	3
C(3日間以下)	5	2

段階A・Bである児童の人数は、20人から23人と上昇した。段階がBからAに上昇した児童bの振り返りカードの記述内容の一部を表14に示す。本児は、2回目の目標決定の際には、日常生活や体験活動を視野に入れた具体的な目標を決定し、振り返りでは今後の生活に学習したことを生かし、改善していこうとする姿勢が見られた。

このことから、体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れることにより、主体的な行動や改善をする力を付けることができたと考える。

項目	具体的な記述
1回目の目標	・声が小さいので、年長さんに伝わるように声出しを10回以上する。
1回目の振り返り	・普段から声が小さい私には大変だったけど、来週はバッチリになるように練習をもっとがんばる。
2回目の目標	・本番に向けて、声出しをがんばり、友達や地域の人にも毎朝大きな声であいさつができるようにする。
2回目の振り返り	・年長さんの立場に立って、意識して言うことができた。学習したことをこれからの生活にも生かしていきたい。

2回目においても段階がCとなった児童cの振り返りカードの記述内容の一部を表15に示す。

項目	具体的な記述
1回目の目標	・人に優しくする。
1回目の振り返り(C)	・年下の友達に対して、優しくできないことがあったので、悪かったと思う。
2回目の目標	・誰にでも優しくできるようにする。特に登下校の時に年下の友達に対して優しくする。
2回目の振り返り(C)	・年長さんには笑顔で優しくできたので、これからは登下校でもがんばる。

本児は、「人に優しくする」という目標を掲げていたが、年下の友達とのトラブルが多く、なかなか達成できなかった。2回目の目標を決定する際には、

「いつ、どこで、誰に」対して行うのかについて具体的な場面での取組を考え、行動していこうとする姿がうかがえる。

(2) キャリア・カウンセリングを行うことは有効であったか

つながりシートの学習の到達点等において、キャリア・カウンセリングについて児童に振り返らせ、全員の記述内容をキャリア・カウンセリングの四つの内容に分類した人数と、具体的な児童の記述内容の概要について、表16に示す。

表16 キャリア・カウンセリングに係る児童の記述内容に分類した人数と記述内容の概要(複数回答) n=25

内容	人数	児童の記述内容の概要
自分を理解すること	3	・私は、何かをするときにいつも緊張してしまってあせって失敗するところが短所だと思っていたけど、それをクリアするためにはどうしたらいいかを先生という考え、やってみることができた。今後、自分がどうしたら短所をクリアできるかが分かったの でよかった。
自分の得意を見つけること	2	・自分は得意なことはないと思っていたけど、一年後の自分に手紙を書く内容について先生と話して、自分が誰にも負けたくないことは水泳だと気付いた。来年は水泳記録会に出場できるように今から練習を続けて、将来は水泳のインストラクターになりたいと思った。
よさについて理解すること	17	・担当した仕事は、最後までやり切るところが自分のよさだと先生と話して気付いた。これからは自分のよさを見つけていきたいと思った。
自分に自信をもつこと	9	・はじめは、実行委員をするのは無理だと思っていたけど、やってごらんと言われて勇気が出せた。本当に自分にも出来たので、実行委員をすることを通して自信をもつことができた。

すべての児童が自分を理解する等の四つの内容に係る記述をしており、中には複数回答している児童もいることから、対話を大切にしたい個別支援を行うことができたと考えられる。

また、児童は「よさについて理解する」内容について、17人と最も多く記述しており、この内容は表5「勇気づけの具体例」に示した②加点主義の言葉かけが作用したものであり、図3「つながりシート」で示したように、キャリア・カウンセリングを意図的・計画的に行うことができた成果と考える。

さらに、「自分に自信をもつこと」の内容を記述した9人の児童の中には、一連の活動において、実行委員やグループ活動のリーダーを務め、様々な体験を前向きに受け止め、遭遇する課題に対して、不安や戸惑いを感じながらも積極的・建設的に解決しようとしていた児童が多かった。このことから、「自

分に自信をもつこと」に係るキャリア・カウンセリングが、児童のキャリア発達を促すことにつながったと推察される。

これらのことから、キャリア・カウンセリングを意図的・計画的に行うことにより、一人一人のキャリア発達を促すことができ、学ぶことや働くことの意義を理解したり、主体的な行動や改善をしたりする力を身に付けることに効果があったと考えられる。

2 「キャリアプランニング能力」は育まれたか

「キャリアプランニング能力」が育まれたかを検証するために、キャリア教育アンケートを実施し、取組の事前と事後の各項目における平均値と、キャリアプランニング能力に係る t 検定の結果について図5に示す。

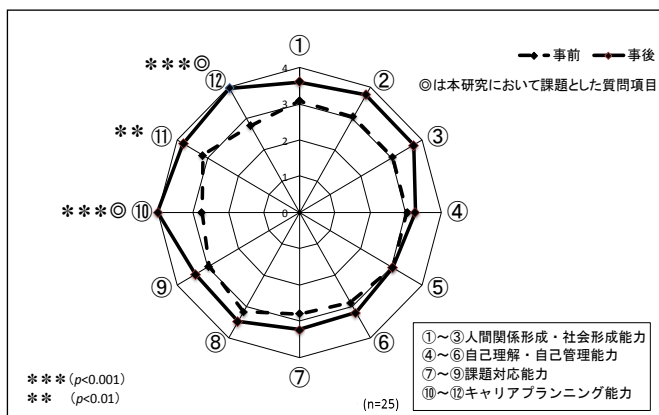


図5 キャリア教育アンケート結果(事前・事後)

この結果から、「キャリアプランニング能力」に係る質問項目⑩⑪⑫の平均値が上昇したといえる。

さらに、同項目について t 検定にかけたところ、質問項目⑩、⑫ともに有意な差 ($p < 0.001$) が見られた。質問項目⑪についても有意な差 ($p < 0.01$) が見られた。

以上のことから、体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れたことにより、「キャリアプランニング能力」が育まれたといえる。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

本研究では、体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れることにより、学ぶことや働くことの意義を理解したり、主体的な行動や改善をしたりする力を付けることができ、「キャリアプランニング能力」を育むことができた。併せて、つなが

りシートや個別支援においてキャリア・カウンセリングを行うことにより、一人一人のキャリア発達を促すことができ、育てたい力の育成に効果があったと考えられる。

2 今後の課題

表1における所属校の連携を柱とした各学年の体験活動を生かし、つながりのある学習として充実・発展させていくためには、本研究の取組を他学年にも汎用することのできるように、具体的な授業の在り方について検討する必要がある。また、つながりシートについては、それぞれの学年に応じた文脈学習の視点を取り入れた学習の内容を示す記述方法の工夫等の改善が必要である。

キャリア教育アンケートにおいて、平均値が上昇しなかった項目⑤については、この項目を含む「自己理解・自己管理能力」の育成について、今後引き続き取り組む必要がある。

【注】

- (1) 佐藤浩章(2001)：「学習の意味探求を重視した文脈 (Contextual Learning) 理論:デイル・パネル著『なぜこれを学ばなければならないの?』を読んで」『北海道大学公教育システム研究第1号』を参考に稿者がまとめた。
- (2) 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導研究センター(平成23年)：『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』p. 54 を参考に稿者がまとめた。
- (3) 会沢信彦(2014)：『今日から始める学級担任のためのアドラー心理学』図書文化 pp. 102-104 に詳しい。

【引用文献】

- 1) 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導研究センター(平成23年)：『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』実業之日本社 p. 54
- 2) 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター(平成25年)：『キャリア教育・進路指導に関するキャリア総合的実態調査第二次報告書』p. 13

【参考文献】

- 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター(平成25年)：『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第二次報告書』
- 文部科学省『立教育政策研究所生徒指導研究センター(平成23年)：『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』
- Dale P. Parnell. (1995)：『Why Do I Have to Learn This?: Teaching Children the Way They Learn』
- 堀哲夫(2013)：『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価OPPA』東洋館出版社